

新富町の新たな力に!

第4回

地域おこし協力隊通信

あかねのつぶやき

新田原の古墳と植輪のクッキーを商品化するため、抜き型を特注で製作したのに、お湯で洗ったらゆがんでしまいました。植輪がいびつです。でも、まもなく発売です(続)



新田中学校で行った授業では、様々な業種の方を呼び、それぞれの仕事観に触れてもらいました。普段の授業とは一味違った内容に生徒たちも興味津々の様子。福島さんも企画しがいがありました。

新富町の先生たちが幸せに働けるように

福島あずさ(ふくしま・あずさ) 1981年、兵庫県西宮市生まれ。高校卒業後、宮崎国際大学への進学を機に家族で宮崎市源藤町へ。結婚を機に和歌山県へ転居するも、宮崎の良さが忘れられずUターン。その後、仕事の都合で東京・大阪などに拠点を移すが、こゆ財団との縁をきっかけに今年4月より2度目のUターンで新富町の地域おこし協力隊に。



38歳で2児の母。夫を東京に残し、1人で子育てをしながら地域おこし協力隊として活動するのは、この4月に着任した福島あずささん。着任前は東京で「働き方改革」に関連する事業に携わっていたことから、その経験やノウハウを新富町の教育分野に生かそうと活動しています。具体的には、「学校の先生たちが幸せに働けるサポート」をすること。

「ふるさと学習」という地域産業について学ぶ授業のこと。これまで「町にどんな仕事があるのか?」どんな特産品があるのか?、「コト・モノ」について探求してきました。今年は少し志向を変えて仕事や特産品に関わる「ヒット」に注目すべく授業の組み立てについて助言するほか、子どもたちがインタビューする「ヒ

ト」の選定にも関わったそうです。授業日には実際に学校へ出向き、福島さん自身も子どもたちにもメッセージを送る場面があったそうです。子どもたちにとっても、多様な視点で物事を見たり、考えたりする機会が持てるのは大変良いことです。このように、教師の方へのサポートを通じて、新富町全体の教育環境がより良くなるよう貢献したいと意気込んでいます。

福島さんが仕事するときによく使うのが、ホワイトボードと色とりどりのマーカー。今抱えている仕事の優先順位やモヤモヤしていることを書き出すことで、頭の中を整理するのに役立っているそうです。

